

アップ クローズ 市政

協定

2市町と災害時相互応援協定

問い合わせ 危機管理室 (☎028599)

熊本県益城町、福井県小浜市と締結

総社市は、大規模災害に備えるため、県内外の地方自治体や民間各種団体とさまざまな防災協定を結んでいます。

11月19日に、熊本県益城町と「災害時における相互



協定書を手を握手を交わす西村町長と片岡市長

を締結。総社市役所で協定締結式を行い、益城町の西村博則町長と片岡市長が協定書に署名しました。西村町長は、「大雨を経験した総社市と熊本地震を体験した益城町の協定は、安心・安全なまちづくりにつながっていくと確信している」と、片岡市長は、「西日本豪雨のときは、

益城町から多大なご厚意をいただいた。これからも良きパートナーとして、互いに支え合えるような関係を続けていきたい」と述べました。

11月30日には、福井県小浜市とも書面で同様の協定を結び、災害時の応援を約束しました。

両協定では、大規模災害が発生した際、食料や飲料水の供給、必要な資機材の提供、職員の派遣を行うことなどを定めています。

県外の自治体と災害時相互応援協定を締結したのは、益城町が11件目、小浜市が12件目です。市が締結している防災協定は、64協定、107団体(12月14日現在)となりました。

市民の命を守るため、高梁川のダムコントロールを訴える



ダム管理者に、緊急時は事前放流しておくよう訴える片岡市長



そうじゃ復興レポート

西

日本豪雨を踏まえ、高梁川の洪水被害軽減に向けて話し合う意見交換会が12月14日、岡山市で開催されました。

西日本豪雨では、流域のダムの放流量が増加し、複数所で堤防が決壊、越水して甚大な被害が発生。緊急時の放流などについて意見交換を行うため、新見市、高梁市、倉敷市、総社市の市長、県、国、中国電力株式会社代表者が出席しました。

会では、岡山河川事務所の担当者が西日本豪雨の被害状況を説明。その後、放流や水位上昇に関する情報提供、豪雨が予想される場合の事前放流などについて各市長が提言しました。

片岡市長は、「二度と死者を出さないために、ダム管理者にはできる限りの事前放流をしてほしい」と訴えかけました。県の佐藤副知事は4市長の提言について、「県民の生命と財産を守り、被害を軽減するこ

とを必ずやらねといけな」と、中国電力の代表者は、「4市長の意見・要望を大変重く受け止めた。今回のダム操作を検証し、今後ができるのか真摯に検討したい」と答弁しました。

市ではこの意見交換会を踏まえて、今後も適正なダムのコントロールや伐木・しゅんせつなどを国、県、中国電力に強く要望していきます。

問い合わせ 危機管理室 (☎028599)

鹿児島県南種子町 荃南小学校から赤米こども交流 in 新本

赤米を神事用として栽培している鹿児島県南種子町、長崎県対馬市、総社市では、赤米文化を保存し継承するため、相互に交流を図る事業を行っています。その一環として、各市町の小学生がそれぞれの地域を訪問し伝統や文化を学ぶ、赤米こども交流事業が今年度からスタートし、8月に新本小学校の6年生が南種子町の荃南小学校を訪れました。

11月24日には荃南小学校の4年生から6年生までの8人を新本小学校に迎え、本庄国司神社や新庄国司神社の見学などを行いました。また、総社赤米大使の相川七瀬さんも参加し、交流を深めました。

3市町に残る貴重な赤米文化を次世代へとつないでいくため、今後も交流事業を推進していきます。

問い合わせ 文化課文化財係 (☎028363)



横断幕を持ち出迎える新本小学校の児童



交流の記念として、児童らが幕に手形をとりメッセージを寄せ書きした

災害時の燃料供給をスムーズに

自家発電装置を市内の2GSが設置

地震や豪雨といった大規模災害時に、ガソリンや灯油の供給に支障をきたすことがないように、初めて市内のガソリンスタンドに自家発電装置が設置されました。

設置されたのは、株式会社角藤田総社中央SSと、有限会社山本石油店総社西SSの2店舗です。

自家発電装置の設置は、過去の大規模災害時に停電が発生し、スタンドの機能が停止したことを受けた国の対策の一環です。

問い合わせ 危機管理室 (☎028599)



株式会社角藤田 総社中央SS (中央二丁目5番1号)



有限会社山本石油店 総社西SS (上原478番地1)

